

1068. 有限群 / induced representation

ニツイテ

大島 勝 (高知高校)

§1. induced character / 積

定理1. 有限群 G / 正規表現 ρ R トスル. $\forall \rho \in G$ / 任意 / 表現 トスル トキ

$$\rho \times R \sim \begin{pmatrix} R & & & 0 \\ & R & & \\ & & \dots & \\ 0 & & & R \end{pmatrix}$$

コノニ右辺ニハ R ハ ρ 度 ρ / 次数カケ現ハレル。

本定理ハ筆者ガ昨年証明シタモノナルガ (學士院記事 参照) 最近此ノ定理ヲ拡張スルコトガ出来タノデ、ソレニ関 係シタコトヲ若干述ベル。

H ρ G / 部分群トシ ρ_H H / 次数 f 夫々 g H ト スル. $m = g/f$

$$(1) \rho_H = \rho_H G_1 + \rho_H G_2 + \dots + \rho_H G_m, \quad G_1 = E$$

ρ_H / 表現 D コリ induce シタ G / 表現 D^* ρ 表 ハス. ρ ρ_H / 表現 トスル トキ $H \subset \rho_H + \rho_H = \rho$ シテ $H \rightarrow \rho(H)$ トスレバ $\rho(H)$ / 全体ハ ρ_H / 表現ヲトス. コレヲ $\rho(H)$ ρ 表ハスコトニスル。

$$\text{定理2. } \rho \times D^* \sim (\rho(H) \times D)^*$$

(証明) 定理1ノ証明ト全然同様ニシテ出来ル。即チ

$$M_k = \begin{pmatrix} \nabla(G_k) & & 0 \\ & \nabla(G_k) & \\ & & \ddots \\ 0 & & & \nabla(G_k) \end{pmatrix}$$

(組シ $\nabla(G_k)$ / 個數ハ D / 次數ガ分取ルコトニスル)ト
スルトキ

$$P = \begin{pmatrix} M_1 & & 0 \\ & M_2 & \\ & & \ddots \\ 0 & & & M_m \end{pmatrix}$$

ト置ケバ G / 元 $G = \text{群シテ}$

$$P^{-1} (\nabla(G) \times D^*(G)) P = W^*(G)$$

トナルコトガ余ル。コトニ W ハ h_g / 表現 $\nabla(h_g) \times D$ ヲ表
ハス。組シコトキ次ノ Lemma ガ入用デアル。

Lemma. A, B ヲ $n \times n$ / matrix トシ B / 次數ヲ

ナルトスレバ

$$(P^{-1} A P) \times B = Q^{-1} (A \times B) Q$$

コトニ Q ハ

$$Q = \begin{pmatrix} P & & 0 \\ & P & \\ & & \ddots \\ 0 & & & P \end{pmatrix}$$

ナル行列ヲ, P / 個數ハ D 度ニ個。

(注意) $h_g = E$ ナルコトキガ定理 / デアル。

(注意2) 基礎体 K の標数が素数 p の素数 q と素数 r と素数 s の積であるならば、計算により定理2が得られる。

以下簡単のため K の標数が素数 p の素数 q と素数 r と素数 s の積であるとする。
 G の絶対既約表現 D_1, D_2, \dots, D_t があり、 D_i より induce した G の表現 D_i^* の指標 $\chi^{(i)}$ を表はすことが出来る。

定理3. $D_i^* \times D_j^* \cong \sum_{k=1}^t D_k^*$ ($k=1, 2, \dots, t$) 分解出来る。従って指標の方で考えれば

$$(2) \chi^{(i)} \cdot \chi^{(j)} = \sum_{k=1}^t a_{ijk} \chi^{(k)}, \quad a_{ijk} \equiv 0 \text{ の有理整数}$$

§2. induced character, 関係

G の共軛類 Γ 中 g 元を含む $E_1, E_2, \dots, E_\delta$ がある。 G の表現 $D_i^* = \sum_{k=1}^{\delta} m_k \chi_k^{(i)}$ である。 E_k を含む元 g の指標 $\chi_k^{(i)}$ を表はす。

$$\text{定理4. } \sum_{i=1}^t \chi_k^{(i)} \chi_\lambda^{(i)} = m_k \delta_{k\lambda}$$

$$(k=1, 2, \dots, \delta)$$

$E_\lambda = E_\lambda^*$ の E_λ を含む元 g の逆元 g^{-1} がある共軛類 Γ がある。

(証明) 正田先生「抽象代数学」p. 361 の同様の方針が出来る。

定理5. D_k ($k=1, 2, \dots, t$) の中一次独立な E_1, \dots, E_δ の組 Γ 中 g 元を含む共軛類 Γ がある。

個數 = 等しい。

(証明) $X = (\chi_k^{(i)})$ $n \times l$ 行列 / matrix を考へれば定理 4 より

$$X'X = (mg/g_k \delta_{k\lambda}^*) = T$$

$T = T'$ の n 次 / matrix $\Rightarrow |T| \neq 0$ 従つて X の階數 n となる。

(注意) 本定理の既 = 中山氏 / 証明を参考 / せよ。

(Ann. of Math. 39, p. 366 参照)

以下 g が g / 不変部分群 となることを考へる。 g = 閉じた互 = 相似 となる表現の class = 纏へれば, class / 個數 n だけ n 個 である。従つて互 = 相似 となる g , 既約表現 $\Delta_1, \Delta_2, \dots, \Delta_n$ として, Δ_k 上 相似 する表現 / 個數 r_k となる。定理 4 = 3 より

$$(3) \quad g_\mu \sum_{k=1}^n r_k \chi_\mu^{(k)} \chi_\nu^{(k)} = mg \delta_{\mu\nu}^*$$

従つて

$$(4) \quad \sum_{\mu=1}^n g_\mu r_\lambda \chi_\mu^{(k)} \chi_\mu^{(\lambda)} = mg \delta_{k\lambda}$$

又 n

$$(4') \quad \sum_{H \in g} r_\lambda \chi^{(k)}(H) \chi^{(\lambda)}(H^{-1}) = mg \delta_{k\lambda}$$

定理 6. $\chi^{(\lambda)}$ = contragredient + 指標 $\chi^{(\lambda)}$ である。

表へ下。

$$\left\{ \begin{array}{l} \chi^{(\kappa)} \cdot \chi^{(\lambda)} = \sum_{\mu=1}^{\Delta} a_{\kappa\lambda\mu} \chi^{(\mu)} \\ \chi^{(\mu)} \chi^{(\lambda)} = \sum_{\kappa=1}^{\Delta} \tilde{a}_{\kappa\lambda\mu} \chi^{(\kappa)} \end{array} \right.$$

ト同様に

$$\gamma_{\kappa} a_{\kappa\lambda\mu} = \gamma_{\mu} \tilde{a}_{\kappa\lambda\mu}$$

(証明) Brauer - Nesbitt 1 方法 (Ann. of Math.

42. P. 579 参照) ト同様ニシテ証明出来ル。